

令和 5 年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

45

福岡県立福岡中央高等学校

自己評価					学校関係者評価									
学校運営計画 (4月)					評価 (総合)	評価 (総合)								
学校運営方針	平和で民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい意思と実践力を備えた、心身ともに健康で国際感覚豊かな人材の育成を目指す。また、夢・志を持って未来に生きる人間性豊かで逞しい生徒を育成し、明朗・真摯な校風を継承、発展させる					自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である								
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標												
「確かな学力の向上」 「キャリア教育の一層の推進と充実」 「自己指導能力を育成する組織的生徒指導体制の確立」 「今日的課題に対する対応」	成果: (1)大学進学課外に希望講座制を本格導入し、生徒の進路希望に応じた講座を開講することができた (2)教員の共通理解を図りながら観点別評価を実施し、校務支援システムや自動採点システムを円滑に導入できた (3)総合的な探究の時間において、SDGsをテーマとして多角的に物事を考える学習を展開した (4)ホームページ・SNS等による情報発信を頻繁に行い、幅広く学校の広報活動を発展させることができた (5)生徒相談の組織体制を確立し、全職員が生徒に寄り添う指導を心掛けて諸問題に対応することができた (6)室内体育大会、秋祭祭など2学期制の特色を生かした柔軟で効果的な教育活動を推進した (7)グローバル化に対応した国際交流として、オンラインによる国際交流を実現した 課題: (1)学校のInstagramに生徒の視点を導入した広報活動の充実 (2)図書館祭・ゼリアナイト・ルックハンティングなどを通じた読書活動の推進 (3)交通安全教育を入学当初に実施することによる自転車事故件数の減少 (4)AGEプランの活用や多様な入試制度に対応した進路指導の充実 (5)国際交流の充実に向けた姉妹校との定期交流や短期海外研修の実施	計画的・体系的な教育課程経営を通じた学習指導要領の理念実現 観点別評価の充実を図り、指導と評価の一体化を組織的に推進する 他者と協働して課題を解決する能力を育成するための教育活動の工夫 学習意欲の向上及び家庭学習の習慣化を図るための指導の工夫 国際化対応に資する英語の資格検定試験受験への積極的取組	将来を見据えたキャリア教育及び3年間を通じた「総合的な探究の時間」の体系化と実践 面談の実施、進路先検討会・進路企画会議等による教職員の共通理解と指導体制の一層の充実 生徒の進路希望に対応した講座制等による効果的な課外及び補習の計画と実施 高い志を育み難関大学合格を目指す学校全体での進路指導の取組の充実	全職員の共通理解に基づく厳しく親身な生徒指導体制の推進 心のこもった挨拶や静止礼の励行を基本とした礼節を重んじる教育の徹底 SNSによるトラブルやいじめ問題に対する未然防止と早期発見・早期対応の取組 自転車等の交通マナー指導の徹底と組織的対応安全安心な学校づくりの推進 カウンセリングマインドに基づく寄り添う指導に徹した教育相談体制の推進	教育活動全体を横断的に見直し、生徒の多様な資質・能力を伸ばす効果的な2学期制の運用 異文化理解・グローバル化対応のための国際交流の機会の設定及び取組の推進 政治的教養を育み社会参画意識を醸成する主権者教育の実践 一人一台端末を活用した効果的な授業の推進 教育相談領域の組織体制を効果的に運用しながら教職員全体による相談対応力を充実させる	A	A							
								並立した教育課程の円滑な経営 1か月に1度は教務課会議を実施して、早目かつ円滑に教務課業務が行えるようにする 早目の企画・準備・周知を行い、必要に応じて教員全体への通知を遺漏なく行っていく	引き続き観点別評価について教科で検討し、話し合う場・時間を設定する 観点別評価を余裕をもって行えるような日程設定を行っていく 採点システムやICT機器などを活用して、評価のスリム化と授業改善を図る	教務課業務を精選・分担し、特定の教員に業務が集中せず複数人で業務にあたるようにする 時刻・日程・考査の時間割などを生徒・教員の実情に合わせて弾力的に設定する ペーパーレス化による諸帳簿の電子データでの管理・運営に向けてスムーズに移行を行っていく	●早期の企画準備や教員全体に対する業務内容を周知・徹底する。 ●観点別評価について、本校により適応した形の検討を教務課から発信する。 ●出席簿の電子化にともない集計業務の更なる扱いやすさなどを検討する。 ●通信速度やPCの処理速度の改善が課題である。			
												持続可能な教務課業務の運営	A A B	A A B
	教務課	並立した教育課程の円滑な経営 観点別評価の充実を図り、指導と評価の一体化の推進 持続可能な教務課業務の運営	校務支援システムに関わることができる人員を増やすとともに、業務を更に割り振っていく 引き続き観点別評価について教科で検討し、話し合う場・時間を設定する 観点別評価を余裕をもって行えるような日程設定を行っていく 採点システムやICT機器などを活用して、評価のスリム化と授業改善を図る 教務課業務を精選・分担し、特定の教員に業務が集中せず複数人で業務にあたるようにする 時刻・日程・考査の時間割などを生徒・教員の実情に合わせて弾力的に設定する ペーパーレス化による諸帳簿の電子データでの管理・運営に向けてスムーズに移行を行っていく	A A B A A A B	A B A A A A B	●早期の企画準備や教員全体に対する業務内容を周知・徹底する。 ●観点別評価について、本校により適応した形の検討を教務課から発信する。 ●出席簿の電子化にともない集計業務の更なる扱いやすさなどを検討する。 ●通信速度やPCの処理速度の改善が課題である。	A	・AI採点システムも積極的に活用して先生方の働き方改革を進めてほしい。						

企画広報課	式典への早期の取組と円滑な運営	各分掌、学年との連絡調整を密に取る 式典、行事ごとの実施要項を早めに提示し、周知徹底を図る	A	A	A	●コロナ前の行事規模に戻りつつあるので、4～5年前の要項を確認した業務改善を行う。 ●FCチャンネルがスムーズに動いているが、途切れる問題点も明らかになったので、適切な対応を検討する。	A	・インスタグラム等による広報活動を今後も充実してほしい。
		前年度までの反省をいかした式典、行事の運営を行う また、次年度に向けて資料の整理を行う	A					
		状況に応じてFCチャンネルを活用し、確実な行事、式典の運営を行う	A					
	「ちゅうおう丸」を公式キャラクターとして広める SNS(インスタグラム)を積極的に更新し、学校のPR活動を行う	A						
中学生・保護者・中学校・学習塾への広報・PR活動の充実	中学校公開Week、オープンスクール、進路相談事業における中学生へのPR活動を円滑に行う	中学校PTA訪問・中学生の体験入学の積極的受け入れを行う	A	A	●中学校PTA訪問・中学生の体験入学について、受け入れ校が増えているので、施設見学等における企画広報課以外の先生方の協力体制を構築する。 ●オープンスクールには約2000人の方が来校されたので恵学堂の座席配置についての検討が必要である。 ●HPが新しいシステムになるので、担当者の増員を行う。 ●インスタグラムについては現在フォロワー数2300を超え、保護者等からも好評だが、投稿以外の機能も活用する。 ●塾からの説明会の要望が増加しているため、運営委員による説明会出席の協力を継続する。 ●冬休休業前に冷蔵庫等の整理ができなかったため、定期的な整理を行う。	A		
		中学校・学習塾(年2回)への訪問を確実に行うまた、昨年度より多くの先生方が関わる形で行う	A					
		給湯室衛生管理当番制の継続、冷蔵庫の整理を長期休業中前ごとに行う	B					
		新転任職員の靴箱・レターケースの整理など年度末・年度当初の業務の確実な実施を協力して行う	A					
図書館課	幅広い教養と豊かな感性を備えた生徒を育成するために、読書啓蒙に努め、図書館利用の促進	朝の10分間読書を実施し、読書習慣の定着を図る	B	B	A	●朝読書の意識向上させ、8:35の着席完了の徹底を行う。 ●授業での図書館利用率向上を行う。 ●「図書館便り」の発行回数を見直す。(年間5回～年間3回以上) ●生徒によるカウンター業務再開に向けて準備をする。 ●学年別のビブリオバトル決勝の時期や実施方法を見直す。 ●合同読書会の課題図書を選定するのが難しかったため、早めに平尾公民館と課題図書選定に向けて話し合いを行う。	A	・図書館教育が充実しているため、今後も継続してほしい。
		雑誌や展示の充実を図り、図書館の利用率を高める 県立図書館の電子書籍サービス等を紹介し、読書活動の推進につなげる	A					
		教科・分掌・学年と連携し、図書館オリエンテーション時や長期休業前の図書の複数貸し出しを促進する	B					
	図書委員会の活動を通し、生徒の自主性と責任感を養うとともに、他者と協働して課題を解決する能力の育成	カウンター業務・館内整理・図書館清掃など図書委員による委員会活動の活性化を図る	B					
		図書館便り(年5回)、図書館報(年1回)、新着図書案内を発行、配信する	A					
	「図書館祭」の企画を充実させ、豊かな感性や表現力の育成	図書委員に「図書館祭」の企画・運営を担当させ、自主性と責任感を養う	A					
		授業や部活動で制作した作品展示などを行い、来館者を増やすための工夫を行う	A					
前年度の反省点を活かしながら「平尾大学との合同読書会」を実施し、地域との交流を図る		A						
生徒指導課	規則の遵守と規律ある学校生活を通して、生徒の自己指導能力の育成	ビブリオバトル、ブックハンティング(選書ツアー)を実施する	A	A	A	●年度末や年度初めに生徒情報の共有を丁寧に行い、生徒支援につなげる。 ●校則の見直しについて、生徒会、PTAとの計画的な協議を継続していく。 ●生徒が活躍できる場面を多く設定し、リーダーシップを育成し行事等を活性化させる。 ●登下校時の交通事故の減少や自転車通学生のマナー向上が課題のため、指導の強化や啓発活動の工夫が必要である。	A	・契約等に関して、成年年齢引き下げに係る消費者教育の充実をお願いしたい。 ・校門での静止礼など伝統を重んじた教育も実践されている。校則見直しなどの流行とともに、不易の部分も大切にしていきたい。
		生徒会・PTAと協議しながら校則の見直しを進め、全職員が共通認識のもと生徒指導にあたる	A					
		全職員での情報共有をスムーズに行い、SNS等によるトラブルやいじめの早期発見・早期対応に努める	A					
	心のこもった挨拶や礼節を重んじる態度を大切にし、互いの個性を尊重する自己表現力の向上	全ての生徒を対象にした教育相談体制を構築し、全職員による相談対応力を充実させる	A					
		生徒会の自主的活動を支援し、各種行事を進展させ、コロナ禍を克服してさらなる学校活性化を図る	A					
		学校行事・部活動等に積極的に参加させ、生徒が活躍できる場面を設定し、リーダーシップを発揮させる	A					
	地域や関係機関と連携し、生徒が安全安心に高校生活を送れる環境の整備	新入生指導等を通じて、校門礼・静止礼・掃除など本校の良き伝統を上級生から下級生に継承させる	A					
		4月に交通安全教室等を実施して、自転車の交通マナー指導を徹底し、交通苦情・事故の減少を図る	B					
		部活動生や生徒会役員など本校生の活躍を、HP・文化祭等で情報発信する	A					
登校指導・巡回指導・夜間パトロール等、地域(平尾校区)と連携し、生徒の安全を守る	A							

保健環境課	生徒が心身ともに健康で安心して学校生活を送ることができる支援体制の充実	生徒の健康状態を把握し、養護教諭と担任団、管理職との迅速な連絡および情報共有を図り、適切に対処する	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●事故防止や対応について、生徒の健康状況を担任や部顧問・教科担当も把握できるようにする。 ●早退時、保護者と連絡が取れない事があるため、その対策の検討を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の安全確保に努め、今後も基本的感染症対策を行ってほしい。
		生徒の健康課題を支援するために必要な情報を共有し、校内や家庭との連携を図りやすい環境づくりに取り組む	B					
		保健だより・保健委員による放送等を活用し、新型コロナウイルス・インフルエンザ等感染症の予防に努める	A					
	生徒・職員の安全確保	一次救命処置(心臓蘇生・AED)についての職員研修を実施する職員・生徒ともにAEDの設置箇所を周知する	A					
		校内の安全点検を定期的に実施する担当箇所を変更する等多くの視点で確認して職員全体の安全意識を高める	A					
		職員・生徒ともに避難経路と防火シャッター・扉の設置箇所を把握しつつ、自分で考え行動できる力を育むことができるよう、効果的な防災訓練を実施する	A					
「中央ECOプラン」の更なる定着と校内美化	掲示・放送等を活用してごみの削減・分別、リサイクル活動を徹底し、学校全体で環境への意識向上を図る	B						
	新入生オリエンテーションやBEAUTY WEEKなど、美化局を中心に、掃除に取り組み姿勢の育成に努める	B						
	前後期ともにワックスがけを行い、環境への感謝の心を育む	A						
進路指導課	九州大学他難関大10名以上、国公立大学計130名以上の合格	大学進学課外において、生徒の進路希望に応じた講座、特に難関大対策講座を開講する	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「選ばれる課外」を目指し、内容を充実させる。 ●次年度は課外に教科「情報」を入れる必要があるため、ローテーションを見直す。 ●学校推薦型選抜及び総合型選抜における面接指導時の生徒のグループ分けや指導方法を再考する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合選抜型、学校推薦型の受験のためにも、子どもたちにボランティア活動の経験を積ませたいので保護者にも活動情報を知らせてほしい。 ・グローバル人材育成のため、今後も国際交流を積極的に進めてほしい。 ・国公立大学の進学だけではなく、関東・関西の有名私立大学への進学を勧めてほしい。
		年3回の進路先検討会について、その時期に応じた内容を工夫する	A					
		学校推薦型選抜及び総合型選抜対策として、教員に対面指導や小論指導の研修会などを実施する	B					
	生徒の進路意識向上に対するサポート体制の充実	「進路の手引き」を早期に完成し、模試の事前指導(素点指導)の充実を図るなど、年間を通して活用する	B					
		ACEプランとして上位者面談の実施や高大連携を図る	A					
		1・2年次から、面談等を通して将来を見据えた志望校選択と志望理由について考えさせる時間を設ける	A					
3年間を通したキャリア教育の充実	「総合的な探究の時間」について、全体計画及び各学年の年間指導計画にもとづき、確実に実施する	A						
	異文化理解・グローバル化対応として、AMSASクールとの交流、イングリッシュシャワーなどをおこなう	A						
研修情報課	授業改善に向けた取り組みの推進と充実	研究授業について、予めテーマを設定して授業実践を行い、以後の授業改善に活かせるようにする	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ●授業アンケートは教科の意見を反映したアンケートの作成・実施をする。 ●職員向けの情報リテラシーの研修を他分野や外部リソースを利用する。 ●外部研修事業・公開授業の案内について、朝礼およびclassi連絡を活用する。 ●機器の不具合への対応を周知できるようにし、円滑化できるようにする。 ●教育支援ツールを継続的に検討し、「個別最適化」な学習支援を実施できるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を充実することはよいが、働き方改革に逆行することは避けていただきたい。
		授業アンケート内の質問を再編し、教員・生徒とも自己の学習・授業を振り返る機会を設ける	A					
	人権教育活動の推進	校内職員研修会を実施することで、職員の人権感覚の向上を図る	A					
		ネットリテラシーを含めた情報端末の使い方を人権教育や情報教育を通じて生徒・職員への周知を図る	A					
	研修事業の計画的実施と教職員の資質向上	校外研修や公開授業の案内を確実にし、積極的に参加することを促し、学んだことを共有できるようにする(研究紀要の充実)	A					
		職員研修会については、昨年度アンケートで希望が多かった内容について職員研修を積極的に取り入れ、日頃の教育活動に活かせるようにする	A					
一人一台端末などの情報機器の管理および有効活用	Classiおよびgoogle クラスルームについて、領域・活用分野に合わせて教育支援ツールを使い分けられるようにする	B						
	一人一台端末の活用方法を情報収集・情報提供するとともに、先生方一人ひとりが学期に1回以上活用できるようにする	A						

1年	基本的な生活習慣の確立と礼節を重んじる態度の育成	学校中心の生活習慣を確立させ、気になる生徒に対しては、学年団・家庭と連携して早期に対応する	A	A	A	●静止礼や授業の際の礼法は、継続できている。今後も継続させるために礼法強化週間などを設定する。 ●清掃や荷物の整理整頓が出来ていない生徒が増加した。環境美化の大切さを説くとともに委員会による働きかけを促進する。	A	・特になし
	基礎学力・学習習慣の定着と進路選択能力の育成	一人一台端末を活用し、生徒の主体性と思考力を育む授業を行う	B					
		個人面談や「総合的な探究の時間」を充実させて、生徒の進路における視野と可能性を広げる	B					
		授業をはじめ、朝課外や補習に生徒が主体的に参加するように促し、学校中心に学習する習慣と基礎学力の定着を図る	B					
	誠意を尽くし、互いに支え合い、高め合う集団の育成	学校行事へ積極的な参加を促すとともに、生徒が様々な役割を果たし活躍できる場を多く設定する	A					
学年自治委員会や学年行事、学校行事を通して学年のリーダーを育成していく		A						
	幅広い人間関係を築くために部活動への加入を促進し、加入率85%以上を目指す	B						
2年	学年全体の学力向上、進研模試の国英総合偏差値60以上100人以上の育成	一人一台端末(クロムブック)やICT機器を活用した、生徒が主体的に学ぶ授業を創作する	B	B	B	●進研模試では、成績下位層が増え、全体の成績も下降した。新課程最初の生徒であり、観点別評価など新しい点において反省と考察が必要である。 ●自立した学習習慣が確保されておらず、課題の消化のみを学習時間とする生徒も少なくない。課題や模試の意義をしっかりと生徒に伝え、根気強く指導する。	A	・特になし
		面談を自己の生活や学習方法を見直す機会とし、個人の到達目標を設定させることで学力を向上させる	B					
		個人の目標設定を後期の前までに行い明確にすることで、学習への動機づけとする	B					
	あらゆることを自分事として捉え、主体的に考え、問題解決する生徒の育成	中学校年として、生徒のリーダーシップを育成し、修学旅行などの行事などを通して共に協力し合う姿勢を養う	A	A	B	●当たり前の事を当たり前に行えない生徒が出てきており、生活・学習の両面で、継続した指導が必要である。自己の健康管理と学習や課題との両立ができるよう指導する。		
		失敗を恐れず、自ら学び行動する生徒を育てると共に、教師がその成長に寄り添い見守る	A					
将来を見据えたキャリア教育の実践、教師が多様な進路実現の手法の熟知	ゴミ減量や清掃を徹底し、身の回りや学校内外を整えることで、学習しやすい環境にする	A	B	B	●課外の受講率が伸び悩み、継続して受講できている生徒の数が少ない。 ●上位層への意識喚起は、ACEプランを通して行ってきしたが、今後も継続していく。			
	大学入試に関して、多様で丁寧な選抜の在り方や海外大学等への進学についても情報収集する	B						
	講座制課外を活用し、上位者指導としての機能を効率的に発揮し、難関大学合格や進路実現につなげる	B						
	オープンキャンパスや講演会などへの出席を推奨し、高い志を持つ生徒を育てると共に、広い視野と社会参画意識を身につけさせる	A						
3年	進路実現に向けて、高い志と明確な目標を持ち、その実現のために努力を継続できる人材の育成	生徒の個性や適性を見極め、適切な進路指導を元に、国公立大学130名、難関大学10名以上の合格を目指す	B	A	A	●進路については、総合型選抜、学校型選抜など順調に成果を上げている。 ●面談を定期的に行い、進路の志望を適切に固めていくことができた。	A	・特になし
		自宅学習時間調査を継続し、長時間の自学に耐えられる知力・体力・精神力を養わせる	A					
	最上級生としての自覚と、なすべきことをわきまえる自律の精神の涵養	二重面談・三者面談を充実させ、担任・副担任との信頼関係を構築させ、学年全体で進路相談にフレキシブルに対応する	A	B	B	●リーダーに体育大会外での主体的な活躍が不足していた。 ●コロナ後、校歌を歌う機会が少なく、大きな声で斉唱することができていない。卒業式に向けて、意欲を含めて指導していく。 ●朝読書(自学)に駆け込んでくる生徒が多く、選別指導を実施し一定の成果はあったが、指導しなければ元へ戻るといった悪循環が生じた。目的の周知を含めて指導していく。		
		新入生指導・体育大会・部活動に全力投球させ、伝統的なあるいは新しい本校の文化の継承者としてのリーダーシップを発揮させる	B					
	社会に生きる市民として、良識ある発言と行動のできる人材の育成	権式の際には、下級生の範となるよう、大きな声で校歌を斉唱させ、学校への帰属意識を高めさせる	B	A	A	●荷物や教室の整理整頓が十分指導できなかった。 ●一部にSNSの使い方、モラルの低下がある。一層の指導が必要である。		
受験期にあっても、授業や課外を大切にし、学校を尊重する態度を求め、保護者と連携して、安易な遅刻や欠席を許さない方針を貫く		B						
荷物や教室を整頓させ、さらに教室の戸締まり、消灯など気づいた者が率先して場を整える習慣を身につけさせる		A						
	SNS上のトラブルに巻き込まれないよう、毎月15日の「スマホの日」を継続して、スマホの使用時間・使用法を更新させる	B						
	受験期にあっても、授業や課外を大切にし、学校を尊重する態度を求め、保護者と連携して、安易な遅刻や欠席を許さない方針を貫く	A						
事務	県民に信頼される教育行政の推進	内部統制により、財務規則等法令を遵守した適正な会計処理を行う	B	A	A	●会計処理において、一部支出の遅れが発生したため、支払方法等を見直すことにより、業務効率の改善を図る必要がある。	A	・特になし
		学校徴収金・指定物品等の見直しにより、保護者の負担軽減を図る	A					
		保護者等外部に対して、丁寧かつ的確な情報を発信する	A					
	学校経営への参画	各分掌と密に情報を共有し、学校教育目標の実現を図る	A	A	A	●経済的に困窮している世帯は年々増加傾向にある為、次年度以降も各学年主任・担任・担当で連携を図り、情報を共有しながら納入を促すことが重要である。		
		生徒のニーズに応える、効果的な予算編成・執行を行い、良好な教育環境を整える	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- ・系統的なキャリア教育の実現と国際交流・ボランティア体験等の実体験の機会拡大等によるキャリア教育の充実を推進する。
- ・総合的な探究の時間の改善により生徒の多様な学問領域への興味・関心の拡大や有名私立大学等への進学を含めた進学先の拡大を行う。
- ・ICTの活用や業務改善により働き方改革を進める。
- ・SNSトラブルの未然防止や良好な人間関係構築のために生徒相談領域の更なる充実を行う。

評価項目以外のものに関する意見

・平尾大学(地域高齢者の活動)等を含め福岡中央高校には多くの地域活動に協力してもらっている。非常に感謝しており、今後も継続してほしい。